

運動部活動における指導法とそのあり方に関する調査

杉元 修平 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中菌 伸二

キーワード：体罰問題，運動部活動指導，指導者

1. 緒言

本来の運動部活動は、学校教育活動の一環として行われており、スポーツに興味と関心を持つ同好の生徒によって自主的に組織され、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動である。

現在に至るまでも部活動に対する問題点というのはさまざま挙げられ、その都度問題解決案が出されている。しかし、依然として未解決なものが多いのはなぜか。これらの問題点というのは指導者の部活動への関わり方一つで改善してくると私は考えている。そして、それらの指導法が、どのように生徒に対して影響を及ぼしているのか、そして生徒はどのように考えているのかについて明らかにすることを今回の目的とする。

2. 研究方法

本学学生、1年2年3年4年男子144名、女子45名の計189名を対象に、高校生時の「部活動についての指導方法」に関する質問紙調査を実施した。質問紙調査は、無記名・自己記入式で2013年12月に行った。

3. 結果と考察

近年、問題とされている体罰問題について、生徒たちの考えには反対意見が多く見られた。一方、賛成意見もまだ決して少なくはない。

そして、指導の差について、個人の能力の違

いでは指導の差をつけても良いという意見も多いことが分かった。しかし、学年やレギュラーなどでの違いでは、選手は指導の差を必要としていないことが分かった。体罰問題や指導法の問題については、指導者側がもっと選手が何を求めているのかを知る必要性があると分かった。そして、部活動の充実度については、必ずしも指導と充実度は比例するわけではないことが分かった。これより、指導者の部活動の関わり方一つでこれらの問題は改善される。よって、指導者の部活動への関わり方が大事である。

4. まとめ

現在の部活動の指導は、生徒にどのような影響を与えているのかという側面から見てみると、部活動の指導などは、生徒にとって指導の差はあまり必要していないということが分かった。どんな指導法よりも、しっかりと知識とやる気のある指導を生徒は求めている。大切なことは、指導者がどう真摯に生徒へ部活動へと関わっていくかである。

引用・参考文献

森田ゆり (2003) しつけと体罰—子どもの内なる力を育てる道すじ。 童話館出版。

坂本秀夫 (1995) 体罰の研究。 三一書房。

吉田浩之 (2009) 部活動と生徒指導—スポーツ活動における教育・指導・援助のあり方。 学事出版。